

平成26年度第1回普賢寺小学校コミュニティ・スクール推進委員会 会議録

1 開会

2 公開に係る説明

【事務局から説明】

3 議事

(1) 平成26年度学校運営方針の確認

【校長から説明】

【主な意見等】

委員 ふるさと体験学習推進委員会が実施したジャガイモの芽かきには、例年になく多くの人に参加してもらった。

委員 お茶摘み体験を見に行ったが、子ども達は教えて貰いながらきれいに摘んでいた。将来の担い手になってくれれば喜ばしい。

委員 お茶摘みについては写真が新聞に載っていた。子どもが家でも話をしてくれて嬉しかった。

委員 (今年度から個別開催となる) 幼小合同運動会は他にはない素晴らしい取り組みだったのだが。

委員 参加者が増えたこともあり、色々なご意見を聞く中で発展的に解消するという話となった。幼小連携を大切にしたいという思いは関係者皆にあるので、違う形で交流を進めていきたいと考えている。

(2) 学校運営協議会の協議内容等の検討

【事務局から説明】

【3つのグループに分かれて討議】

【各グループの討議内容の発表】

- 地域全体のお祭りを開催すれば盛り上がるのではないか。
- 普賢寺地域に専従の職員を置いて、行政側の窓口を固定して貰えば話がし易くなる。
- 新しく家は建てられないが空き家はある。行政が斡旋すれば人口も増えるのでは。
- 今でも区域外から普賢寺小学校に来てくれる人がいるし、普賢寺幼稚園にも希望者が多くいるようだ。新しく何かをするのではなく、この学校のやり方をブレないでやって行ければ良いという話になった。
- 1学級の規模は何人ぐらいが適切なのか。人数が多くなると小規模の良いところが失われる。20人なら20人と決めてしまう考えもある。
- 授業以外でこれだけの取り組みをしている学校は余りない。普賢寺小学校にはポテンシャルがある。
- 短期的にできることと長期的にできることがある。長期の取り組みになると責任の所在が曖昧になるし、担当者が替わる場合も適切に引き継ぎをしないと継続できない。
- 教育的な観点から考えると、普賢寺小学校の取り組みは効果があり、特色を発揮できている状況にある。それを地域に還元できる場があれば。地域の中心としての学校が必要だと考えている。

(3) その他

【事務局から次回の開催日程等を連絡】